

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 其他河川 東江の川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 構造物基礎

ボーリング名	Bor-6	調査位置	広島県呉市川尻町板体地内			北緯	34° 14' 50.3910"			
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所			調査期間	令和5年 6月 26日 ~ 令和5年 6月 28日		東経	132° 40' 46.3076"		
調査業者名	主任技師			現代理人	コアア		ボーリング責任者			
孔口標高	T. P. 265.06m	角			方位			地盤勾配		
総削孔長	7.00m	使用機種	試錐機 東邦D0		エンジン ヤンマー-NFD-12		ポンプ	東邦BG-3		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試験採取番号	室内位置試験	削孔月日	
												深度-N値図		N値	100mmの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量				自沈時の貫入量
1	263.85	1.21	粘土混じり礫質砂			褐色	rd5		新生代第四紀	粘土分10%程度混じる細~中砂土体。径50mm以下の亜円礫と径5cm程度の硬質岩片混入。深度0.40m以深、流紋岩岩片と土砂混入。		250	1.15 1.21	50 60	50 60	60	1.15 1.21	P6-1	⊖	6/26	
2	262.41	2.65	玉石混じり砂礫			茶褐色	rd4		中生代後期白亜紀	流紋岩質凝灰岩 (強風化部) コアは主に鉛柱状で採取され、全体的に網目状亀裂と傾斜角約20~30°の割れ目が発達。 割れ目に沿って風化変質が進み、軟質。粘土化部分のみられるが、風化変質を受けていない岩片は硬質。 深度4.02~4.40m、深度5.00~5.40m間、コア肌滑らかな岩片~短棒状硬質玉石混入。 深度4.60~4.65m、傾斜角約30°の硬質花崗斑岩の貫入岩存在。 深度4.65~4.95m、深度5.45~5.90m、深度6.30~6.60m間、傾斜角約80°の割れ目が発達し、割れ目間は白色粘土化している。		31	2.35 3.32	11 20	8 20	12 20	31 300	2.65 3.32	P6-2	⊖	6/26
3												750	3.32 4.02	50 20	50 20	20	3.32 4.02	P6-3	⊖	6/27	
4						暗緑灰						750	4.02 5.40	50 20	50 20	20	4.02 5.40	P6-4	⊖	6/27	
5													貫入不能		50 0					6/27	
6													貫入不能		50 0					6/27	
7	258.06	7.00											107	7.00 7.14	29 40	50 140	140	7.00 7.14	P6-7	⊖	6/28